

# 本 編

# 市の概要

平成17年4月1日、石巻地域の1市6町は、新たな石巻市として生まれ変わりました。東西約35キロメートル、南北40キロメートル、面積554.50平方キロメートルの市域の中、北上川が新旧二つの河口から追波湾と石巻湾に注ぐとともに、その流域には平野が広がり、丘陵が点在しています。海岸は、長面浦・万石浦の入り江を伴いながら、太平洋側・牡鹿半島のリアス式海岸、石巻湾側の砂浜と変化を見せ、沖合の金華山、網地島、田代島といった大小の島々では、タブノキなどの林に覆われています。

また、北上高地から牡鹿半島へと続く北上山系の山々は、モミ・イヌブナ・ブナの自然林が原生林の面影を留めています。



市の木

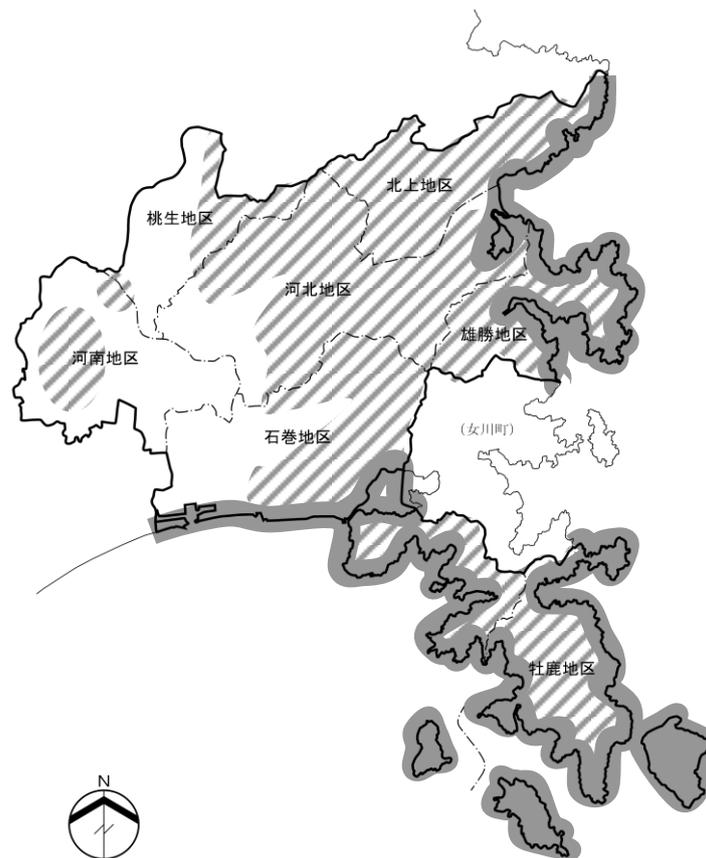
クロマツ



市の花

ツツジ

(平成17年10月17日制定)



石巻市 東経 141° 18' 北緯 38° 26'  
人 口 : 149,248 人 (H27. 3. 31/住民基本台帳)  
世帯数 : 59,952 戸 (同)  
面 積 : 554.50k m<sup>2</sup>  
(H26. 10. 1/全国都道府県市区町村別面積調)

凡 例	
	海岸・島嶼地域
	山地・丘陵地域
	平野地域

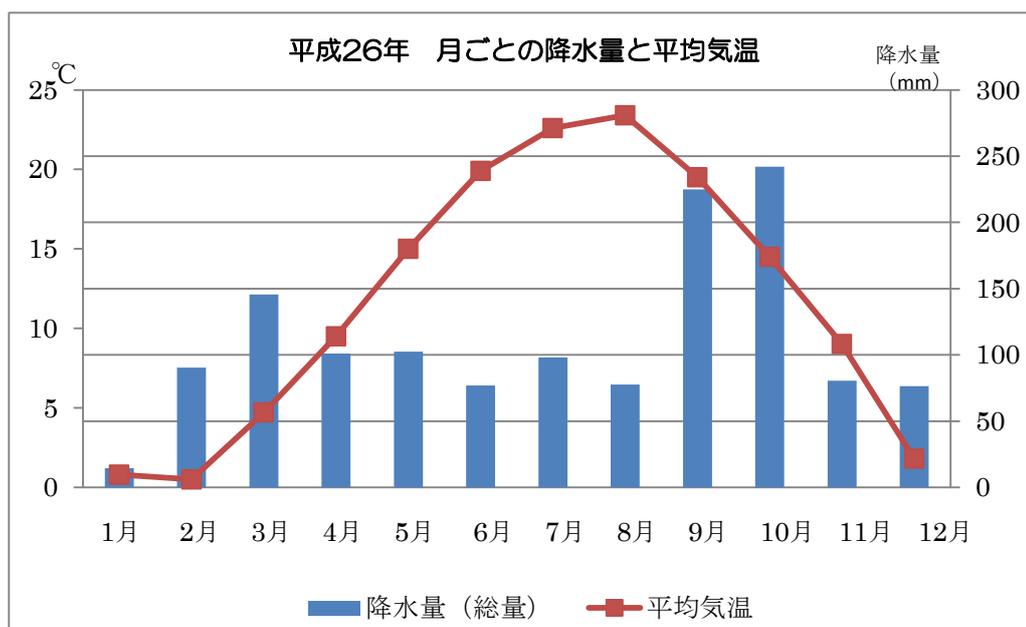
気候は、4月から9月までは、海洋の影響などで朝晩の気温変化が少なく過ごしやすくなっていますが、梅雨期には、冷たく湿った北東の風「ヤマセ」により、曇りや雨の日が多く肌寒い日が続きます。1月から3月までは、北西からの季節風が強くなってきますが、降雪量は少なく、晴れ上がった乾燥した日が多くなっています。

産業面を見ると、太平洋沿岸部では古くから漁業や水産加工業が盛んで、石巻工業港ではパルプ・紙製品製造や木材・木製品製造及び鉄鋼業等の工場が立地しています。

また、内陸部では、稲作を中心として農業・畜産・園芸等が営まれています。

東日本大震災の被害により、工業港、漁港とも大きな被害を受けましたが、工業港では、50社中48社が事業を再開し、平成25年9月には新たに1社が進出しました。岸壁や埠頭等の港湾施設もほぼ全ての復旧工事が完成し、平成26年取扱貨物量も約375万トン（平成22年比93.3%）と順調に回復しています。石巻漁港の水産加工団地では、水産加工関連企業207社のうち120社（平成27年3月31日現在）が再開し、漁港の復旧事業も進められています。

→資料編33ページ参照



### 平成26年 石巻市の気候に関する主要データ

年間平均気温	11.8℃	
年間最高気温	33.4℃	
年間最低気温	-6.8℃	
年間降水量	1330.5mm	
日最大降水量	158.5mm	(気象庁調べ)

### 漁業の盛んなまち

石巻漁港は日本でも有数の漁港であり、東日本大震災の影響により取扱高が減少しましたが、平成26年の取扱数量約9万7千トンは、全国主要漁港の第9位となっています。  
(株式会社時事通信社調べ)